

図書館職員学びなおし講座

第4講座「図書館情報技術論」レポート

長野県高等学校図書館 新システム

「本だな@nagano（仮）」利用ガイド

2011年 9月12日

大町北高等学校 学校司書

竹腰史佳

はじめに

長野県の県立高校図書館は、平成13年度からデータベース化が始まり、現在すべての県立高校で同一のシステムを使っている。しかしそれらはすべて自校サーバで運用されているため、データの共有は全くされていない。また、使用しているシステムのライセンスの問題もあり、図書室以外の教室や研究室からは蔵書検索すらできない状態で、現行の図書館システムは、学校外はもとより学校内にも開かれていない状態である。

現在の県立高校図書館が提供可能なデータを有効利用する方法として、以下のような、架空のシステムの利用ガイドを作つてみた。

長野県高等学校図書館 新システム「本だな@nagano(仮)」利用ガイド

県内の高校図書館がつながりました！ あなたに役立つ情報がいつでも手に入ります！

アドレスはこちら→ (<http://◆◆◆>) 携帯用サイトはこちら→ (<http://★★★>)

サービス一覧

○進路の本だな 進路に必要な本を紹介します！

小論文や面接のための勉強で迷つたら検索してみよう。分野・学部・資格などからおススメ本や必読本を紹介。県内の高校図書館で受験生に提供した本のリストも見られます。それぞれの本には先輩たちの「お役立ちコメント」も。

- ・君に必要な本はこれだ！「分野別ブックリスト」
- ・面接に役立つ「面接本リスト」
- ・昨年以前の試験に出た「引用本リスト」
- ・掲示板「教えて！ 進路本」

○おススメ本だな 長野県の読書好き高校生集まれ！

- ・長野県の高校生が今読んでいる人気本はこれだ！（毎日更新します）
- ・この本の次に読む本を教えて！
- ・課題解決本紹介！ レポートで困つたら見てみよう
- ・私のイチオシ本 自分の好きな本について自由に書き込んでみよう
- ・先生のおススメ本
- ・図書館からの新刊案内

○授業の本だな 図書館でこんな授業をしてみませんか？（教員向け）

県内高等学校で実際に行われた授業の内容が、教科・科目・学年などから検索可能。調べ学習で使ったブックリストも公開しています。

「本だな@nagano（仮）」解説

○進路の本だな……進路指導関連図書情報サービス

進路という分野は、高校生に図書館を利用して欲しい分野の一つで、近年ここに力を入れてサービスを展開している高校図書館が多い。それぞれの高校でブックリストを作ったりしているが、データとしては共有できていない。また、生徒や進路担当教諭等の利用者が自由に閲覧できる状態になっていない。他校での利用の様子を知ることもできていない。

「進路の本だな」では、進路学習に必要な読書案内、推薦図書、昨年度以前の小論文問題等で実際に引用されていた書籍のデータなどを共有する。予備校が現在行っているネットのサービスに似ているが、生徒自身（卒業生）のコメントが付いていて、実際に読んでみての難度やお役立ち度を知ることができる。それらの評価は利用者が直接入力することができるが、個人の特定はできないものとする。

○おススメ本だな……本は好きだけど、自分ではなかなか選べない利用者のためのサービス。

「次に何を読んだらいい？」と利用者からよく訊かれる。また、カウンターの近くに「返却ほやほや本」という棚を作つておくと、そこからよく借りていかれる。悔しいことに、司書が図書館だよりで推薦した本より、生徒図書委員会が作成したおたよりに載つた本のほうがよく借りていかれる。

自分の身近な人たちはどんな本を読んでいるのか、同世代に人気のある本は何なのか、高校図書館の利用者は知りたいのではないかと思う。

この人気本リストは、毎日の貸出データを共有サーバへアップすることで、自校のものだけでなく、県内の高校のデータを元にしたリストが閲覧できる。

また、先輩たちがレポートを書くときにどんな本を調べたのか、研究集録の参考文献リストや同じカテゴリの「関連本リスト」なども表示される。（参考：「新書マップ」）¹

このサービスは、ログインすれば利用者におススメの本が紹介される、または、本を検索すると、その本を借りた別の人があつたのが次に何を読んだのか、などの情報が表示される。

ただし、貸出履歴を利用するかどうかは利用者本人が選択し設定する。また、履歴から個人や高校の特定はできないものでなければならない。できれば1冊ごとに設定ができることが望ましい。さらに、図書館は利用者の同意無くこれらを設定することはできないものとする。「図書館の自由に関する宣言」と絡むため、サービスとしては難しいかもしれないが、近年実施している公共図書館²もある。

ただし、この「本だな@nagano（仮）」には、教育現場における個人情報保護の問題があ

¹ 「新書マップ」(<http://shinshomap.info/search.php>) テーマから複数の関連本を探すことが可能

² 成田市立図書館「おすすめリスト」

(<http://www.library.narita.chiba.jp/webservice/recommend.html>)「借りた本、予約している本、今度読みたい本のデータから興味をひきそうな資料を提案するサービスです」（サイト本文より）

る。高校では、特定の生徒の貸出履歴の開示を求められることがある。たとえば特別支援対象の生徒などがそうで、どんな小さな情報でも集めたい教諭などから要求され、「図書館の自由に関する宣言」を守りたい図書館と保健室や相談室が対立することもしばしばある。

貸し出し履歴の開示については、利用者本人の意思が確認できて、開示しても良いデータのみとする、といった方法を徹底することが必要と思われる。ただそういった情報が、上記のような事例に役立つかどうかは未知数である。

○授業の本だな（教員向け）……図書館を使った授業の事例集

長野県高等学校図書館協議会は、以前から「図書館を使った授業」のデータを集めている。ただそれらは、単年度発行の紙媒体がほとんどで、司書および図書館係の教諭のみが読む程度であり、図書館から離れた教諭の目に触れる機会は、まったくと言って良いほど無い。

調べ学習をしてみてください、図書館で授業をしてみてください、授業で本を使ってみてください、と図書館側から提案してみても、未経験の教諭は図書館でどんな授業ができるのか知らない。また自分の教科が図書館で授業ができるものなのかもわからない。実際に、安曇支部の高校図書館協議会の場で授業利用についてお願いをしてみたところ、ある教諭から「では、図書館としてはどんな授業をして欲しいんですか？」と訊かれたことがある。そこで、ここには長野県の高校図書館が持っている授業の実例のデータを載せる（参考：東京学芸大学「授業に役立つ学校図書館活用データベース」）³。

それらのデータは、教科・科目・学年等のキーワードから検索可能とする。授業の様子の動画や課題プリントなどの資料データもあるとよい。

まとめ

今回の学び直し講座「図書館情報技術論」では、図書館そのものが持っているデータが利用者だけでなく図書館のためにも役立てられていないことを痛感した。図書館がそれらを発信することで、新たな利用にどうつながっていくのか、きちんと検証をしていかなければならない。一方、インターネットには多くの情報があふれており、図書館としては乗り遅れている感もある。それらをバランスよく組み合わせて利用者に還元していくために、もっと学ばなければならないとも思っている。

学校図書館が提供できるデータは公共図書館に比べて少ないかもしれないが、ターゲットを絞って提供すれば、新たな利用を生み出せそうである。

まずは、長野県内の高等学校図書館の共有サーバの早期設置が望まれる。

³ 東京学芸大学学校図書館運営専門委員会「先生のための 授業に役立つ学校図書館活用データベース」(<http://www.u-gakugei.ac.jp/~schoolib/htdocs/>)